

5th

伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト

伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト

入 選 作 品

主催	若柳町、築館町、迫町、宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団
主管	伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト実行委員会
後援	宮城県、若柳町観光協会、築館町観光協会、迫町観光協会、 河北新報社、読売新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、岩手日報社、 宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会
協賛	富士フィルム株式会社、宮城県写真材料商組合

入 選 者

各 賞	題	氏 名	住 所
最優秀賞 (宮 城 県 知 事 賞)	晩 夏	篠 原 善 彦	登米郡米山町
優 秀 賞 (宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団理事長賞)	夕 翔	佐々木 均	秋田県横手市
金 賞 (若 柳 町 長 賞)	伊豆沼 浄土	渋谷 昌 久	玉造郡岩出山町
金 賞 (築 館 町 長 賞)	内沼寸景	伊 藤 利喜雄	岩手県一関市
金 賞 (迫 町 長 賞)	伊豆沼の夕景	氏 家 泰 子	宮城県仙台市
銀 賞 (若柳町観光協会会長賞)	黎明燦燦	菅 原 敏 彦	黒川郡大和町
銀 賞 (築館町観光協会会長賞)	静 寂	工 藤 邦 彦	加美郡中新田町
銀 賞 (迫町観光協会会長賞)	ダッシュ!!	庄 子 光 男	宮城県仙台市
銀 賞 (宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会会長賞)	金色の朝	千 田 久	岩手県水沢市
銅 賞 (河 北 新 報 社 賞)	羽づくろい	栗 原 正 寿	栗原郡栗駒町
銅 賞 (読 売 新 聞 社 賞)	カワセミ	佐 藤 文 昭	登米郡迫町
銅 賞 (朝 日 新 聞 社 賞)	流 氷	伊 藤 潔	宮城県古川市
銅 賞 (毎 日 新 聞 社 賞)	朝日に輝いて	天 野 恵 美	宮城県仙台市
銅 賞 (岩 手 日 報 社 賞)	夜明けの伊豆沼と漁師	千 葉 慶 悦	栗原郡若柳町
入 選	沼に憩う	米 谷 広	遠田郡涌谷町
入 選	伊豆沼の詩	渋谷 繁 子	玉造郡岩出山町
入 選	寒朝列泳	熊 谷 國 穂	宮城県古川市
入 選	SWAN(スワン)	今 野 章	志田郡三本木町
入 選	内沼暮色	庄 子 充	宮城県仙台市
入 選	はい、おやつ	遠 藤 武 将	宮城県仙台市

総 評

第5回伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト審査結果について述べたいと思います。伊豆沼・内沼は日本の国でも野鳥の生息地として大変有名ですがアマチュア写真家にとって魅力ある素材に恵まれたところで、日常的に観察が続けられる近くの人には、もっともっといい被写体をとらえ、伊豆沼・内沼の自然の素晴らしさを、写真を通して多くの人々に訴えていって欲しいと思います。

通常、伊豆沼・内沼の写真は野鳥だけと解釈されがちですが、野鳥以外にも魚、水生植物なども含めた素晴らしい自然にもっと目を向け、これをよく観察し、映像を通して世の人々に訴えて行くことができれば、大変素晴らしいと思います。

今年も、皆さんから応募された作品で感ずることは、やはり被写体の伊豆沼・内沼がとても素晴らしいところであることを、再確認いたしました。

この素晴らしい被写体に、常にレンズを向けられる皆様は、大変幸せだという気がしました。

フォトコンテスト審査員 竹内 敏 信



1943年愛知県生まれ。名城大学卒業後、愛知県庁勤務を経て写真家として独立。感覚の鋭さと独特のカメラワークで、自然の映像化を極め、新しい風景写真家の旗手として活躍中。93年春、『桜』をテーマに日本原風景を追究したビジュアルな写真展を開催、話題を集めた。現在、日本写真家協会、日本旅行作家協会の各会員、日本写真芸術専門学校、現代写真研究所の各講師。



【評】 篠原さんの「晩夏」この作品は、写した時間帯が夕方なのか、朝方なのかよくわかりませんが、ブルートーンの静かな空気感の中に、数十羽のサギが落ちついてとらえられており、とてもいい雰囲気の商品に仕上がっております。

これが、人家の近くにある沼だとはとても思えないような幽玄で、神秘的な感じがするところが魅力です。ブルートーンも大変効果を上げていて、情感を盛り上げるのに充分役立っている素晴らしい作品です。



【評】 雁が、飛び立たんとするところをとらえたのか、着水する瞬間をとらえたのか、わかりませんが、夕翔とある通り、夕方の低い光の中にそれぞれの雁の姿が立体的にとらえられていて、一羽一羽の姿が存在感をもって写されています。

この羽ばたきの音と臨場感あるこのシーンは、写真でなければ表現できない世界で、いい瞬間を見事に写しとめた一枚と言えます。

金賞（若柳町長賞）

「伊豆沼 浄土」

渋谷 昌久



【評】 こういうシーンがまさに伊豆沼・内沼の作品で、これほどの野鳥が集まる沼は、日本広しといえども、そうないのではと思います。ここに集まる野鳥が低いライティングによってとらえられており、その水面に写る太陽の輝きと、野鳥のシルエットがとても印象的で、画面そのものが赤く低い光によって、表現されたのも効果を上げています。伊豆沼浄土と題したタイトルの様に、ここが野鳥にとつての極楽浄土だという気持ちながめられていて、静かな画面の中に個々の野鳥の動きと、生命の輝きを伝えてくれる作品です。

金賞（築館町長賞）

「内沼寸景」

伊藤利喜雄

【評】 控え目なタイトルにしていますが、寸景どころかこれは、白鳥やカモ等野鳥が飛翔している姿が、大変見事でダイナミックな雰囲気です。

背景が雪原で沼面に氷が張り、雪が積もって、冬の伊豆沼・内沼が激変することを物語っています。全体のトーンがやや渋味のある色調で、温度感、空気感に風土感のあふれる作品となっております。



金賞（迫町長賞）

「伊豆沼の夕景」

氏家 泰子



【評】 ハスがすでに枯れた夏の終わりに、本来は見た目にも無残な姿であるべき筈なのに、遠景での撮影でしょうか、全体のトーンがブルーの画面に仕切られて、朽ちてゆくハスの花が造形的にバランスよく配され、沼の晩夏の雰囲気が見事に表現されています。サギと人物がいる前景から遠景に至る画面構成も充分行き届いている作品だと思います。

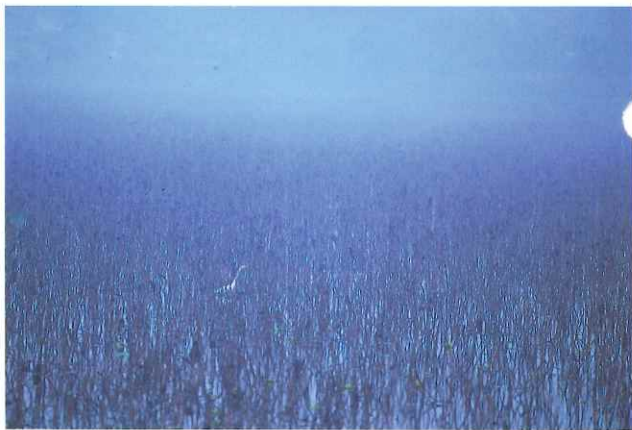


銀賞（若柳町観光協会会長賞）
「黎明燦燦」 菅原 敏彦

銀賞（若柳町観光協会会長賞）
「黎明燦燦」 菅原 敏彦

【評】 真赤にもえた朝日が、沼面に反映してドラマチックな、沼の様子を見事にとらえています。雲とそのトーンだけで見せるというのは、なかなか達者なやり方です。ここまでのものを象徴化して見せるのも写真表現法としてはひとつの方法で、それを取り入れて行くことで、今後の創作の上に役立つと思います。この作品は雲の様子がとても面白くて、それが力となっております。

【評】 タイトルのごとく、静かな雰囲気が画面から伝わってきます。この中の一羽のサギが静寂感の中で強烈に個を主張しており、その存在がとても大きな役割を果たしています。
全景に見比べて、遠景が霞んで見えるのも、この場の雰囲気を盛り上げるのに充分で、撮影が早朝なのでしょうか、朝の空気感が伝わってきます。

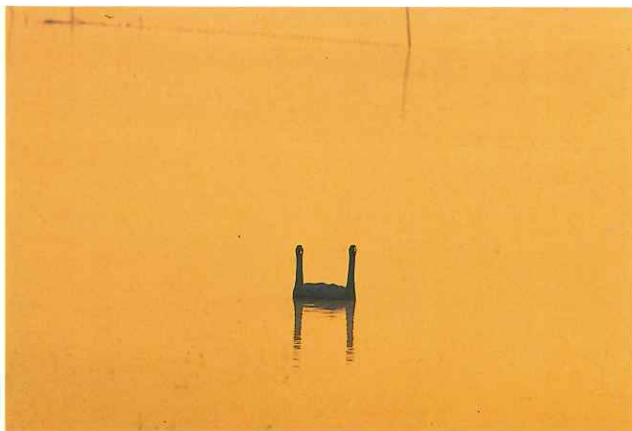


銀賞（迫町観光協会会長賞）
「ダッシュ!!」 庄子 光男

【評】 タイトルのとおりダッシュ、これから飛び上がろうとする白鳥を見事なフレミングでとらえております。なかなか白鳥の飛び立つ様子をとらえるのは、むずかしくて自分のタイミングとレンズワーク及び、ピントなどの技術が伴わないと表現しにくいものです。この作品はそれをクリヤーして、飛び立とうとする二羽の白鳥を見事にとらえています。背景が黒く沈んだのもこの二羽の白鳥を強調する意味では効果があり、よく見るとしづきまで写し込んでいて、高速シャッターでとらえた効果がこの作品の中に出来上がっています。

銀賞（宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会会長賞）
「金色の朝」 千田 久

【評】 タイトルも不思議ですが、この面白い情景をよくとらえました。沼面が静かで二羽の白鳥の頭が、水面にも写り込んで、ちょっと見ると水の上にHと言う文字を表したような面白さがあります。
この二羽の白鳥が全体のトーンの中でピリッと締まったバランスにとらえられている。また空間の拡がりの中に白鳥の大きさが適切で、空間全体を引き締めた構成になっています。
白鳥の写真は多いですが、このように造形的な扱いによって、野鳥の生態をとらえたものは少なく、そういう点では不思議な魅力をもった作品となっております。



銅賞（河北新報社賞）
「羽づくろい」

栗原 正寿



【評】 いい位置から、いいライティングで白鳥のこまやかな動きを丁寧にとらえています。水面に白鳥の動きによる小さな波がほのかに立っているところは、観察のこまやかさを感じさせ、白鳥の視線やその一枚一枚の羽根の姿にも作者の観察力のこまやかさとやさしさが表われて、非常に好感がもてる作品です。派手な内容ではないが、見ていて飽きない要素をもっている素晴らしい作品です。

銅賞（朝日新聞社賞）
「流水」

伊藤 潔



【評】 沼に張った氷が風で押し流され、砕け散る状態がこの伊豆沼・内沼にもあることをこの写真が知らせてくれます。前景及び背景と飛ぶ野鳥の扱い、そして太陽の姿等、さまざまな要素を組み込んだものですが、この場合空の全景が多過ぎるので、空を押さえて、その分下を取り入れていくと、もっと力強い作品になったと思います。

銅賞（岩手日報社賞）
「夜明けの伊豆沼と漁師」

千葉 慶悦



銅賞（読売新聞社賞）
「カワセミ」

佐藤 文昭



【評】 ここまでカワセミをクローズアップできれば立派なもので、カワセミの姿をきちっと丁寧にとらえています。ライティングが良かったためか、カワセミそのものに立体感があって、まさにここにはカワセミそのものが写し出されています。色調もトーンも完成された内容になっていると思います。

銅賞（毎日新聞社賞）
「朝日に輝いて」

天野 恵美



【評】 沼全体を撮ることが伊豆沼・内沼の良さを引き出すことではなく、やはり沼の周辺に生えている小さな植物にも目を向けて行くことが大切な行為だということを、写真は物語っています。
猫じゃらしに張ったものの糸を逆光でやさしくとらえ、この沼の周辺の自然が豊かであることを、感じさせてくれる写真です。雰囲気がとてもよく、ここを吹き抜けて行く風のささやきを感じられる内容になっています。

【評】 伊豆沼にも漁師さんが居るならば、こういう場面をもっともっととらえた写真が出て来てもいいと思います。夜明けに投網を打つ漁師を、いいアングルからとらえて、この沼の生活感を出しており、他の作品と比べてユニークな内容になっております。投網の大きさを、もう少し大きくとらえると力が出たのですが、さらにローアングルから、空に拡がった状態を写せば、もっと変わった生活風景がとらえられたのではないかと思います。

入選

「沼に憩う」

米谷 広



【評】 静かな雰囲気が観察者を安堵感に誘いこむ要素をもってあります。二羽の白鳥と背景の小船、そして朝の水蒸気が非常にバランス良くとらえられて、この沼の良さ、沼の美しさをじんわりと感じさせる内容になっています。

入選「寒朝列泳」

熊谷 國穂



【評】 とても美しく静かで、雰囲気のある写真です。朝の風景の中で白鳥が列をつくって泳いでいる姿が、とても静かで印象的です。

情景をもっと良くするためには、画面比率を空が5、水面が5くらい切ってやると、もう少し洒落た風景写真になったと思います。空の分が一割くらい多く、その分下の水面に取り入れてやると、現代的な空気感が漂った風景になりとても良くなります。

入選

「はい、おやつ」

遠藤 武将



【評】 21歳で最年少者、若い人達が応募してくれることは、大変歓迎すべきことだと思います。写真も白鳥にエサをやる老人をとらえて、他の内容とは変わったところがあります。

後の女性の表情はいいんですが、老人の表情がもう少し何かあると、もっと強くなります。人物を撮るときには、人の表情をそれぞれもう少し観察して撮られるようになると、一点一点がもっと強く感じられるようになりますので、今後その点を注意して頑張ってください。

入選

「伊豆沼の詩」

渋谷 繁子



【評】 今回は、沼のハスを撮ったものが意外に少なかった。これは初夏のハスの姿を大変美しくとらえて気持ちのよい作品です。早朝の撮影なのか、ハスの花まわりに小さく露がついており、この露のデリケートな状態も正確に描写されています。ハス沼の辺りでぽっと咲いたピンクのハスの花を、印象的にとらえています。

入選

「SWAN（スワン）」

今野 章



【評】 この作品はユニークな内容です。シルエットになった4羽の白鳥の姿が造形的に、白いと思います。この作者は白鳥にピントをあわせたのではなく、逆光に輝く水面にピントをあわせている。果たして白鳥にピントをあわせるべきか、逆光の波にピントをあわせるべきか、悩むところですが、この場合は細波にピントが当たっている。これはこれで面白味があり、白鳥にピントが合っても面白味がでくると思えます。一瞬のことで、どちらにするか、難しい問題ですが、4羽の白鳥の形をそれぞれ変化をもつてとらえたところがよく、このように心理的なイメージを追求した白鳥の写真が、将来もっとでくることが願いたいと思います。

入選

「内沼暮色」

庄子 充



【評】 これは多分エサを求めてやって来た白鳥の群れと、そして氷結した湖面に残っている白鳥の群れを逆光で撮ったもので、この写真のいいところは、この白鳥の群れと背景に輝いてる朝の光だろうと思います。いずれにしても、白鳥の群れを撮るわけですから、理想的な白鳥の姿というのは、一枚ではなかなか決めにいくので、もう少し遠方に白鳥が何羽かいると、遠近感のあふれた写真になり、この群れそのものが光ってきたと思います。

伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト実行委員会より

伊豆沼・内沼の自然フォトコンテストもお陰様で第5回を迎えることができました。第3回までは若柳町単独の行事でしたが、伊豆沼・内沼を中心とした地域全体の行事としてはどうかという要望が各方面から寄せられ、第4回からは築館町、追町、さらに伊豆沼・内沼環境保全財団が加わって、文字通りこの地域を代表する写真展に向けての努力が積み重ねられて来ました。

今回もまた、この地域はもとより、全国各地からたくさんのすぐれた作品をお寄せいただきました。いずれも素晴らしい作品で伊豆沼・内沼の自然に寄せる多くの人々の熱いまなざしを感じずにはおれませんでした。本当にありがとうございました。

入選作品につきましては、審査員の竹内敏信先生の評を付させていただきました。写真をお撮りになる皆様方の参考になるのではないかと存じます。一年を通してさまざまな季節に伊豆沼・内沼の写真をお撮り下さり、来年の写真展にお寄せいただくことを願っております。

これまでに、多くのご意見やご指導をいただきありがとうございました。

今後それらを踏まえ、参考にして参りたいと思いますのでよろしく願います。